

最後の審判の日を警告

再現日録

終戦への31日間

⑥ 原爆報告書、米大統領へ

米国がニューメキシコ州で16日に成功させた原爆実験の詳細な報告書が21日、ドイツ・ポツダムで3首脳会談中のトルーマン米大統領のもとに届けられた。

報告書によると「実験はいかなる楽観論者の期待も超える成功を収めた」（軍の開発責任者グロープズ將軍）。放出されたエネルギーは「控えめな推定としてもTNT火薬1方5千トンから2万トンに相当する（同）」という。

「強い爆風の後、ほとんどただちに強く、持続的な恐ろしいごう音が聞こえてきた。それは最後の審判の日を警告し、われわれささいな存在の人間が、手出しするのは冒瀆（ぼうとく）であると思われる」（ファレル將軍）との言葉も報告書にはあった。スティムソン陸軍長官から内容を



ドイツ・ポツダムでの首脳会議の合間に、スターリン・ソ連首相（左）の宿舎を訪問したトルーマン米大統領＝1945年7月24日（AP＝共同）

聞いたトルーマン大統領は「とてつもなく喜び、非常に元気になった」（同長官）という。

実際、大統領はこの夜の本会議で、スターリン・ソ連首相を相手に攻勢に出て、ドイツ・ポーランド間の国境画定問題をめぐって激しくやりあった。

◇ スティムソン日記などによる。翌22日、この報告書を見た英首相チャーチルは「これで昨日、彼に何が起こったか分かった」と語り、トルーマンの別人のような姿貌ぶりに納得したという。

（2015年7月21日河北新報朝刊）

- ①アメリカでの原爆実験は、何年に行われたのですか。
- ②原爆の威力を「最後の審判の日」と表現していますが、それはどのようなことを表しているのだと考えますか。
- ③トルーマン大統領が「とてつもなく喜び、非常に元気になった」のはなぜだと思いますか。
- ④この記事を読んで、あなたが思ったことを書きましょう。

年 組 名前

（中学校・高校／朝の会前10～15分）